

2021 年度 課外活動奨励賞受賞者一覧

この賞は、様々な課外活動の分野で顕著な活躍をした学生（個人および団体）を、大学と後援会が共同して表彰することにより、広く学生全体の課外活動を奨励することを目的としています。

【 個 人 】

氏名	所属	表彰内容・理由
服部 香梨	日本語日本文学科 4 年	1 年次から 4 年間、学生ノートテイクラーとして熱心に活動し、聴覚障がい学生のサポートを行った。ノートテイク講習会では先輩学生として参加し、学生ノートテイクラーの普及活動にも貢献した。コロナ禍でも障がい学生の授業や状況に合わせ円滑な支援ができるように工夫し、意欲的にサポートする姿勢は、まさに相模女子大学が目指す「社会に貢献できる女性」であると言える。
大樂 友香	英語文化 コミュニケーション学科 4 年	毎週土曜日に開催されている「CEMLA 学習支援教室」に学生ボランティアとして 1 年次から 4 年間継続的に参加し、中心的な役割を果たした。CEMLA の活動において学習者との信頼関係が大きな意味を持つことに早くから気づき、地道に活動を続け、学習者のみならず CEMLA スタッフからも厚い信頼を得た。コロナ禍でのオンライン（Zoom）開催にも尽力し、CEMLA 活動の継続に貢献した。

【 団 体 】

団体名（所属学科）	表彰内容・理由
コンテスト 2021 チーム (英語文化コミュニケーション学科)	コロナ禍でも前向きにコンテストに挑み、神奈川県経済同友会主催「神奈川産学チャレンジプログラム」では『One's life design 美しく輝くためのライフプランニング』で最優秀賞、『ロコマル CIAL が届ける横濱物語』旧横ギャラリーと横濱開港菜を組み合わせた SPECIAL なマルシェ』『認知度向上のための 2 つの顧客獲得作戦～変わらない美味しい味の継承のために～』で優秀賞を受賞した。また、相模女子大学主催の「さがみ発想コンテスト」では「コンテナカフェを活用したオシャレなカフェ Sagajo terrasse」でグランプリ、「サガジョ 銀杏フェスタ」、「オンラインで気軽に参加プレ同窓会」で準グランプリを受賞、「さがじょカード」で入賞を果たした。
子ども教育学科ボランティア グループ「どれみんみん ♪」	With コロナでの新たなボランティア活動のあり方として、2021 年度は「企業ならびに NPO と連携して、福祉施設を支援する」という形を模索した結果、企業から提供された物品等を有効活用して頂ける社会福祉施設等に寄贈する“橋渡し”を担う活動を開始し、スタートアップイベントの実施や神奈川県内の児童養護施設等へ寄贈を行った。企業からの物資を有効活用し、社会的弱者の支援に役立てることは、相模女子大学が掲げる SDGs のポリシーにも合致し、地球規模で社会を見据え、マクロ視点で福祉を考えるとという点においても、その活動には大きな意義がある。
社会マネジメント学科 チーム大館	「いかなる状況にあっても大館市との交流を絶やさない」をモットーに、大館市側と話し合いを重ね、オンラインによる二元中継イベント「こどもとおとなの文化祭」を開催した。大館市側の方々と緊密に連携を取りながら、チーム丸一となってイベントを成功させたことは、大館市役所を始め、大館市の方々から高く評価され、秋田県庁からも注目を集めた。コロナ禍においても初の試みに果敢に挑戦し地域貢献を続けたことは、相模女子大学の地域協働活動の模範と言える。
学生プロジェクト団体 「サガジョ盛り上げ隊 プロジェクト」 (日本語日本文学科・ 英語文化コミュニケーション学科・ 社会マネジメント学科・人間心理学科・ 健康栄養学科)	本プロジェクトは、学生自らの手で大学を盛り上げたいと考える学生により 2020 年 9 月に発足した。プロジェクト名も学生が命名し、その名のとおり、夢をかなえるセンター連携教育推進課における社会貢献活動や国際教育等を通じ学生自身が身につけた力を、学内外へ広く発信することにより大学を盛り上げた。夢をかなえるセンター特設サイトの制作、オンライン地域物産展の企画・運営、地域の小学生向けイベントにおけるオンライン講座の企画・運営等、コロナ禍にあっても創意工夫を凝らし様々な活動を行った。